



挨拶

徳島県高等学校体育連盟
会長 藤井 敬久

高体連会員の皆様の日々の献身的なご尽力が、本県高校生の体育・スポーツの振興や競技力の向上、人材育成に繋がっていることに心より感謝申し上げます。また、本県高体連の諸事業に対し、深いご理解とご協力を頂いていることに厚くお礼申し上げます。

さて、今年度は「響かせろ 我らの魂 南の空へ」のスローガンのもと、全国高等学校総合体育大会「感動は無限大 南部九州総体 2019」夏のインターハイが、7月24日から8月20日の間、鹿児島県、熊本県、宮崎県、沖縄県の南九州4県と和歌山県で開催されました。本県からは、県大会や四国ブロックの厳しい予選を勝ち抜いた654名の選手・監督の皆さんが参加しました。

団体では、女子サッカーで鳴門渦潮高等学校が初の表彰台となる3位に入る大健闘を見せてくれました。個人でも、男子ウエトリフティング73kg級で準優勝に輝いた徳島科学技術高等学校の金谷武龍君、自転車競技スプリントで同じく準優勝の小松島西高等学校の太田彪馬君、水泳飛び板飛び込みで昨年の4位に続き準優勝した生光学園高等学校の森岡さくらさんなど、団体1チーム、個人6名が見事入賞を果たしました。入賞した団体・個人には2年生も多く、来年の活躍も大いに期待されます。

また、広島県で全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会が開催され、チームライフル男子団体で、小松島高等学校が準優勝、エアライフル女子団体で、城西高等学校が7位入賞を果たしました。個人ではチームライフル男子立射60発競技で城西高等学校の林優介君が準優勝、小松島高等学校の浜田有都君が5位、チームライフル女子立射60発競技では小松島高等学校の松宮沙也加さんが7位入賞を果たしました。全国レベルの競技力を有しながらも、あと一歩のところまで入賞を逃がしたチーム・選手も多く、今後の活躍が期待されます。

さらに、全国高等学校定時制通信制体育大会には、県内5校から5つの競技に出場しました。現在、11の競技において全国大会が開催されていますが、今後も、より多くの皆さんがスポーツに親しみ、競い合い全国大会を目指してくれることを期待しています。

さて、時代は平成から令和に変わり、新しい時代の幕開けとなる年となりました。スポーツ界においては、ラグビーワールドカップ2019がアジア初の開催として日本で行われ、日本代表チームは見事、史上初のベスト8入りを達成し、日本中を感動の渦に巻き込みました。惜しくも優勝した南アフリカに敗れましたが、世界各国のチームに対しての日本各地でのおもてなしは、ホスト国日本としての役割を十分に果たし、世界から日本チームの戦いぶりと同時に絶賛されました。そして令和2年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催です。2020年の東京大会は最高の環境を整え、アスリートがベストの競技ができる日本全体の祭典として、特に、東日本大震災の被災地については「復興五輪」として、大会が復興の後押しとなり、見事に復興を成し遂げた姿を世界に向けて発信する大会となると期待されています。

そして、2022年は、四国開催の全国高校総合体育大会が行われます。本県は開会式と6競技の実施が決定しています。大会愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター等の選考も終わり、令和4年のインターハイ開催に向けて着実に準備が整いつつあります。また、2023年の全国中学校体育大会の四国開催についても動き始めているようです。このような中で、体育・スポーツの大きな風が今後、今まで以上に吹くことが予想されます。この風を「追い風」として、我々関係者が一体となり体育・スポーツの振興・普及・強化、更には、体育・スポーツを通じた人材育成に共に汗を流さなければならないと思います。

本連盟では、現状を十分に把握するとともに未来を切り拓いていく子どもたちのために誠心誠意取り組んでいくつもりです。また、体育・スポーツを通じた人間形成の中で、フェアな精神で規律を重んじ、相手を思いやることのできる自立心と心身共に健全な子どもたちの育成に努め、環境整備にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後ともご協力の程よろしく願いいたします。

最後に、県教育委員会や県知事部局をはじめ関係機関と会員の皆さんのご協力・ご尽力に敬意を表しますともに厚くお礼申し上げます。また、原稿をお寄せいただいた皆さんに感謝いたしまして高体連誌の発刊のあいさつとさせていただきます。



高体連誌発刊によせて

徳島県教育委員会体育学校安全課
課長 林 日出夫

高体連会員の皆様には運動部活動をはじめ、本県高等学校における体育・スポーツ振興の推進役として、各競技会や研究活動の普及と発展のために御尽力をいただいておりますことに、敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、令和元年度の高等学校競技スポーツを振り返ってみますと、全国高等学校総合体育大会（感動は無限大 南部九州総体 2019）において、団体では鳴門渦潮高校女子サッカー部が3位、生光学園高校が水泳（女子飛込競技）で4位、徳島市立高校男子サッカー部が8位と、昨年度と同数の3競技で入賞となりました。個人でも、ウエイトリフティング、水泳（飛込含む）、自転車競技、陸上競技で昨年を上回る11種目の入賞を果たし、徳島県代表として全国総体の舞台上で強豪を相手に堂々とした戦いぶりを見せてくれました。

また、同時期に開催されました全国高等学校ライフル射撃選手権大会では、小松島高校男子が団体チームライフル2位、城西高校女子が団体エアライフル7位、個人でも小松島高校が男・女チームライフル、城西高校が男子チームライフルで入賞を果たし、こちらも昨年度を上回る5種目で入賞となりました。

これらの成果は、生徒の皆さんの努力はもちろんですが、毎日の練習の中で生徒の才能を磨き、合宿や遠征を通してチームワークを高め、全国の舞台上で最高のパフォーマンスを引き出した指導者の皆様の熱心な取組の賜であります。携わっていただいた全ての関係者に対しまして深く感謝を申し上げますとともに、今後も一層の御指導・御協力をお願い申し上げます。

一方、学校教育においては、平成30年告示の新学習指導要領が令和4年度入学生から年次進行により適用されることとなり、本年度から移行措置が実施されているところです。保健体育科においては、「心と体を一体として捉え、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの継続」が重視されており、体力や技能のレベル、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や、「する・みる・支える」に「知る」を加え、スポーツとの多様な関わり方、オリンピック・パラリンピックに関する指導を通して、スポーツの意義や価値等に触れることができるよう内容の見直しが行われました。

さらに運動部の活動についても、生徒の能力等に応じた技能や記録の向上をめざし、互いに協力し合って友情を深めるなど、好ましい人間関係を育てるよう適切な指導を行う必要があります。運動部の活動も学校教育活動の一環であることから、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた視点も参考に指導を行うことが大切であると示されています。

これらの実現のために、保健体育科教員への期待は大きく、各学校におかれましては、引き続き、体育の授業や運動部の活動はもちろんのこと、教育活動全体の中で生徒がスポーツに親しみ、その楽しみや喜びを味わう機会を確保できるカリキュラムマネジメントの充実をお願いいたします。

結びとなりますが、高体連会員の皆様には、本県の未来を支える高校生の心身ともに調和のとれた健全な発達と、高校スポーツの充実・振興のため、一層の御支援・御協力をお願いいたします。

高体連の今後益々の御発展を祈念申し上げます、高体連誌発刊に寄せる言葉といたします。